

國際聯盟脫退當時緊張したる國民は今非常時が薄らいだかの様に感じてゐるが未して其の當時より非常時は薄らいだであらうか、國民は一九三〇年<sup>五</sup>の危機も何等起つて来ないし又北支問題チヤハル問題最近の上海不敬事件に對する日本の強壓も全面的に支那が容認し外國も何等抗議し得ない、こんな事が原因で非常時は薄らいだと考へるのであらう、歐米は聯盟脫退當時<sup>六</sup>に非常時決意と實力を知り、北支に属する問題には抗議をやめ其の後自己の實力を養ふ事に汲々とし以前よりも深刻に根強く悪化してゐると思ふ、經濟、貿易上に於ても日本商品をダンピングなりとして悪感情を持つてゐる事も稀だ、廣田外相の日米親善外交辭令の交款、北支鐵道買収に依る日露關係、支那公使を大使昇格に依る日支の關係、こんな事によつて國際關係が圓滿に保たれてゐるが如く考へるのは大いに間違つて居る、滿洲國獨立に歸して國際聯盟

は擧つて日本を不正義なりとし壓迫を加へんとしたのであるが、何處迄も日本は正義なりとの主張を以て進まねばならぬ、この正義を眞に歐米に認めさせる事が即ち非常時を解消させる事である先づ支那に滿洲を認めさせれば非常時の大半は解消するのだ、只表面を以て解消せりと考ふる事は然る可きことだ、非常時は益々深刻化しつつかある事を覚悟し正義に向つて邁進せねばならぬ

大詔實機圖（佐賀）

元 石 榮

天皇機關説換派の叫は續けられてゐるが、機關説の何たるやを詳かにする事は官憲の許さざる處であるから言はぬ、最早詳細に検討する迄もなく日本人として許す可からざるものである。大體明分は其等と行動を共にする輩を感奮する外にない、これを叫ぶに何を憚ることがあらうか私は昨九日上野精養軒にて頭山先生を初め愛國の闘士、學者等幾多の烈士集る中に九州男子の許はらざる